めるといった卒前教育との差別化が，指導歯科医になされていない可能性が示唆された．
結論：専門のSPと高難度の課題の組合せを体験した研修歯科医が本研修を高く評価しており，本研修の意義は高いと考えられた．さらに医療面接の卒前教育と卒後臨床研修との差別化のために，課題の見直しと指導歯科医の意識の変化が必要である．

演題6．予防歯科総合講義プレ・ポストテストにおける識別指数と正答率との関連

○岸　光男，相澤　文恵　阿部　晶子，南　健太郎，杉浦　剛，杉山　芳樹*，米満　正美

岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座口腔保健学分野*，
同口腔外科学講座　歯科口腔外科学分野

目的：学内で行う試験における識別指数の意義を検討することを目的とした．
方法：本学6年生を対象とした10回の予防歯科学総合講義で行ったプレ・ポストテスト結果を分析対象とした．プレテストは講義前に実施し，直ちに回収した．講義終了後に同じ試験問題を配布し，ポストテストを行った．全てのプレ・ポストテストを受験した者66名の結果について以下の指標を算出した．
個人正答率：個人の正答数／総問題数
識別指数：総合成績上位1/4における問題別正答率－下位1/4における問題別正答率
結果：個人正答率は講義前の平均値0.635 ± 0.089に対して講義後に0.862 ± 0.071から有意に上昇した（$p < 0.001$，対応のあるt検定）．全165問の識別指数はプレテストが0.221 ± 0.197とポストテストの0.159 ± 0.151よりも有意に高い平均値を呈した．しかし，識別指数マイナスとなった問題数はプレテスト16問に対し，ポストテスト3問で，ポストテストで有意に少ない割合であった．識別指数と正答率の関連をPearsonの相関係数で分析したところ，プレテストでは$r = -0.029$で有意な相関は見られなかったが，ポストテストでは$r = -0.683$と，正答率が低いほど識別指数が高い関係が認められた．
考察：識別指数は下位1/4が極めて低い正答率の場合に高くなることから，集団のレベルがボトムアップすると，同一問題の識別指数は低下する．レベルが近接した集団のさらに細かい識別のためには正答率の低い難問が適するが，知識の与え方や設問が不適切な場合には正答率が低くとも，識別指数は高くならない場合もある．
結論：識別指数は受験者集団の知識レベルによって変化するため，介入可能な集団に対して行った試験問題の識別指数は，問題の良否もさることながら集団への介入のあり方で大きく左右されることが考えられた．